

無題

透明なガラスを次々と重ね
さらに、さらに重ねて陰をつくる

真新しい銀でできた木の傍ら^よを過ぎる者がある
雪のような白さのアスファルトが流れてゆく
それが現在と呼ばれる時点なのだ

無垢という名の想念が足を踏み出す
そのわずかなタイムラグを含んだ動作
やがて解体へと向かい
固定することのできぬ「我」
切断　　これしかない

芸術は、既に「至上」ではなく「必要」になっている
論理的連鎖がもたらす時間の管
その中を流れてゆく
あるいは吸い上げられてゆく「明日」という養い水
(2004.1.7)